

地球温暖化防止

GHG プロトコルに基づく温室効果ガス排出量

★ 第三者保証対象指標

項目名		2020 年度		2021 年度		2022 年度		2023 年度	
		千トン -CO ₂	% (注 6)	千トン -CO ₂	% (注 6)	千トン -CO ₂	% (注 6)	千トン -CO ₂	% (注 6)
上流 (Scope3)	購入した製品・サービス	1,192	21.4	1,304	18.2	1,361	25	1,086★	27.3
	資本財	15	0.3	13	0.2	11	0.2	7	0.2
	スコープ 1,2 に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	99	1.8	94	1.3	85	1.6	82	2.1
	輸送、配送 (上流)	53	0.9	71	1.0	44	0.8	32	0.8
	事業から出る廃棄物	4	0.1	4	0.1	4	0.1	3	0.1
	出張	27	0.5	23	0.3	48	0.9	71	1.8
	雇用者の通勤	5	0.1	6	0.1	5	0.1	5	0.1
	リース資産 (上流)	88	1.6	64	0.9	72	1.3	44	1.1
自社 (Scope1,2)	直接排出 (Scope1)	75	1.3	70	1	65	1.2	64★	1.6
	エネルギー起源の間接排出 (Scope2)	583 (注 3)	-	530 (注 3)	-	476 (注 3)	-	451★ (注 3)	-
		540 (注 4)	9.7	428 (注 4)	6.0	341 (注 4)	6.3	268★ (注 4)	6.7
下流 (Scope3)	輸送・配送 (下流)	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	販売した製品の加工	12	0.2	16	0.2	16	0.3	12	0.3
	販売した製品の使用	3,470 (注 5)	62.2	5,073 (注 5)	70.7	3,358 (注 5)	61.7	2,283★	57.4
	販売した製品の廃棄	1 (注 5)	0.0	8 (注 5)	0.1	6 (注 5)	0.1	4★	0.1
	リース資産 (下流)	当社事業は非該当	-	当社事業は非該当	-	当社事業は非該当	-	当社事業は非該当	-

項目名		2020 年度		2021 年度		2022 年度		2023 年度	
		千トン -CO ₂	% (注 6)	千トン -CO ₂	% (注 6)	千トン -CO ₂	% (注 6)	千トン -CO ₂	% (注 6)
下流 (Scope3)	フランチャイズ	当社事業は非該当	-	当社事業は非該当	-	当社事業は非該当	-	当社事業は非該当	-
	投資	当社事業は非該当	-	当社事業は非該当	-	27	0.5	17	0.4
Scope3 合計		4,966	89.0	6,676	93.1	5,037	92.5	3,646	91.7

(注 3) ロケーション基準による排出量。

(注 4) マーケット基準による排出量。

(注 5) 集計精度の向上に伴い、遡及して修正。

(注 6) Scope2 をマーケット基準とした場合の、総 GHG 排出量 (Scope1+Scope2[マーケット基準]+Scope3) に占める割合。

マテリアルバランス

事業活動における環境負荷

INPUT

事業活動における環境負荷の INPUT ★ 第三者保証対象指標

項目名		単位	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
設計・調達・製造・開発	原材料					
	金属	千トン	11 (注 3)	13 (注 3)	11	8
	プラスチック	千トン	4 (注 5)	5	3	3
	その他	千トン	8 (注 5)	8 (注 3)	6 (注 3)	5
	化学物質 (注 1)					
	VOC	千トン	0.3	0.3	0.3	0.2
	PRTR	千トン	9.8	9.5	7.9	6.8
	水					
	合計	百万㎡	6.77	6.89	6.15	6.09★
	エネルギー (注 2)					
	合計	TJ	5,879	5,572	5,092	4,877★
	購入電力	TJ	4,463	4,196	3,823	3,634
	重油、灯油など	TJ	109	99	93	81
	LPG、LNG	TJ	113	107	105	102
	天然ガス、都市ガス	TJ	1,123	1,112	1,018	1,008
	地域熱供給 (冷暖房用)	TJ	71	58	53	53
物流・販売	エネルギー					
	燃料 (軽油・ガソリン他)	PJ	0.77	1.03	0.63	0.47
使用	エネルギー					
	電力	GWh (PJ)	7,818 (注 3) (28.15)	11,507 (注 3) (41.42)	9,685 (注 3) (34.87)	6,153 (22.15)
再資源化	資源再利用率	%	91.6	92.9	93.6	94.1
	処理量	トン	2,991	2,393	1,996	1,986

OUTPUT

事業活動における環境負荷の OUTPUT

	項目名	単位	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
設計・調達・製造・開発	原材料					
	CO ₂ 排出量	千トン-CO ₂	293 (注 3)	298 (注 3)	190 (注 3)	120
	化学物質 (注 1)					
	VOC	トン	135	157	161	135★
	PRTR	トン	6	6	5	9★
	大気					
	温室効果ガス排出量合計	千トン-CO ₂	658	600	540	516★
	CO ₂ (注 4)	千トン-CO ₂	653	598	538	513★
	CO ₂ 以外の温室効果ガス (PFC、HFC、SF ₆ など)	千トン-CO ₂	5	2	2	3★
	NO _x	トン	26	10	33	25
	SO _x	トン	1	0.3	0.3	0.1
	排水					
	合計	百万m ³	6.48	6.68	5.13	5.00
	BOD	トン	303	301	219	137
	COD	トン	9	15	12	5
	廃棄物					
	廃棄物発生量	千トン	11.0	12.5	11.6	9.6★
	サーマルリサイクル	千トン	1.5 (注 3)	1.8 (注 3)	1.7	1.9★
	マテリアルリサイクル	千トン	9.0 (注 3)	10.0 (注 3)	9.4	7.3★
	廃棄物処理量	千トン	0.5	0.7	0.5	0.4★
物流・販売	大気排出					
	CO ₂	千トン-CO ₂	53	71	44	32
使用	大気排出					
	CO ₂	千トン-CO ₂	3,470 (注 3)	5,073 (注 3)	3,358 (注 3)	2,283★

- (注 1) 化学物質：PRTR 対象物質と VOC の重複する物質については VOC に含める。
- (注 2) これまで省エネ法が定める熱量換算係数 9.97MJ/kWh を用いて、電力使用量を一次エネルギー変換した値を開示していましたが、当期より 3.6MJ/kWh を用いる方法に変更しています。
- (注 3) 集計精度の向上に伴い、数値を遡及して修正しています。
- (注 4) ロケーション基準
- (注 5) 事業領域の変更に伴い、数値を遡及して修正しています。

環境パフォーマンスデータ算定基準

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日

第11期富士通グループ環境行動計画

集計範囲：各目標の詳細ページを参照

目標項目	指標	単位	算出方法
気候変動			
<Scope1.2> 事業拠点のGHG排出量を2025年度末までに、基準年の半減にする。 (基準年：2020年度)	温室効果ガス排出量	トン-CO ₂	- CO₂排出量： ①燃料、ガス及び供給された熱 $\Sigma \{ (\text{燃料油、ガス及び供給された熱の年間使用量}) \times \text{エネルギー毎のCO}_2\text{換算係数}^* \}$ *CO₂換算係数：「地球温暖化対策の推進に関する法律」による換算係数 ②電力 電力の年間使用量×CO₂換算係数（ロケーション基準算出用およびマーケット基準算出用） - ロケーション基準： - 国内：2022年度0.437トン-CO₂/MWhを使用 (出所「電気事業低炭素社会協議会」2024年2月6日公表の調整後排出係数) - 海外：IEA最新値（IEA Emissions Factors 2023） - マーケット基準： - 国内：電力事業者ごとの2022年度排出係数を使用（調整後排出係数）（出所；温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度 電気事業者別排出係数一覧） - 海外：電力会社の値もしくはIEA最新値（IEA Emissions Factors 2023）

目標項目	指標	単位	算出方法
<Scope1.2> 事業拠点のGHG排出量を2025年度末までに、基準年の半減にする。 （基準年：2020年度）	温室効果ガス排出量	トン - CO ₂	- エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガス排出量： エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガス（非エネルギー起源CO₂、CH₄、N₂O、HFC類、PFC類、SF₆、NF₃）の年間排出量。 Σ〔各ガスの年間排出量^{*1}×ガス毎の温暖化係数^{*2}〕 *1 電機・電子業界の算定式に基づく：各ガスの使用量（購入量）×反応消費率×除去効率など *2 温暖化係数（GWP）：IPCC（気候変動に関する政府間パネル）「第5次評価報告書」
	自効努力による温室効果ガス削減率	%	（自効努力による温室効果ガス削減量合計値/前年度温室効果ガス総排出量）×100
<Scope1.2> 再生可能エネルギー使用率を2025年に50%以上まで拡大	再生可能エネルギー利用比率	%	当該年度の使用電力量に対する当該年度に利用した再生可能エネルギー（太陽光、風力、水力、バイオマス、地熱等）による自社発電量および外部からの購入量の合計の比率
<Scope3> （カテゴリ11） 製品の使用時消費電力によるCO ₂ 排出量を12.5%以上削減	製品使用時CO ₂ 排出量の削減率	%	「下流（Scope3）販売した製品の使用」で算出された温室効果ガス排出量の、2013年度排出量を基準として求めた減少率
資源循環			
水資源施策を積み上げ、水使用量を5.7万m ³ 以上削減する	水使用削減量	m ³	各事業所の施策による水削減効果（実績量または想定量）を積み上げ、当該年度の削減量を集計する

地球温暖化防止：GHGプロトコルに基づく温室効果ガス排出量

指標		単位	算出方法
上流 (Scope 3)	購入した製品・サービス	トン -CO ₂	年度内の部材の調達量×調達量当たりの排出原単位 (出典：国立研究開発法人国立環境研究所 地球環境研究センターの産業連関表による環境負荷原単位データブック (3EID)) 調達量は富士通グループの集中購買を対象とし、各グループ会社による自主調達は含まない
	資本財	トン -CO ₂	当該年度の建設工事物件の検収総額×排出原単位 (出典：環境省・経済産業省 サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース Ver.3.4)
	スコープ1, 2に含まれない燃料およびエネルギー関連	トン -CO ₂	主に自社が所有する事業所において購入（消費）した、燃料油・ガス、電気・熱の年間量×排出原単位 (出典：環境省・経済産業省 サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース Ver.3.4、国内の排出原単位データベースより、「IDEAv2.3（サプライチェーン温室効果ガス時排出量算定用）」)
	輸送・配送（上流）	トン -CO ₂	国内輸送：富士通グループを荷主とする国内輸送に関わるCO ₂ 排出量 (出典：「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」（省エネ法）に基づく富士通グループを荷主とする国内輸送に関わるCO ₂ 排出量、燃費法（一部車両）および改良トンキロ法（車両、鉄道、航空、船舶）)
		トン -CO ₂	国際輸送／海外域内輸送：輸送トンキロ×排出原単位 (出典：GHGプロトコル排出係数データベース)

指標		単位	算出方法
上流 (Scope 3)	事業から出る廃棄物	トン -CO ₂	主に自社が所有する事業所が排出した廃棄物種類・ 処理方法別の年間処理・リサイクル量×年間処理・リ サイクル量当たりの排出原単位 (出典：環境省・経済産業省 サプライチェーンを通じた組織 の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベー ス Ver.3.4、国内の排出原単位データベースより、 「IDEAv2.3 (サプライチェーン温室効果ガス時排出量算定 用)」)
	出張	トン -CO ₂	(移動手段別) Σ (交通費支給額×排出原単位) (出典：環境省・経済産業省 サプライチェーンを通じた温室 効果ガス排出量算定に関する基本ガイドラインVer2.3および 排出原単位ベースVer3.1)
	雇用者の通勤	トン -CO ₂	- 公共交通機関利用分：(移動手段別) Σ (交通費 支給額×排出原単位) (出典：同上) - 自家用車利用分：Σ (輸送人・キロ×排出原単位) - 輸送人・キロ：交通費支給額・ガソリン価格およ び燃費から算出
	リース資産 (上流)	トン -CO ₂	賃借事業所における、燃料油・ガス、電気・熱の年 間消費量×燃料油・ガス、電気・熱消費量当たりの排 出原単位 (出典：日本：地球温暖化対策の推進に関する法律－温室効 果ガス排出量算定・報告・公表制度、海外：IEA CO ₂ Emissions from Fuel Combustion 2023)
自社 (Scope 1,2)	直接排出	トン -CO ₂	主に自社が所有する事業所における、燃料油・ガス の消費 (燃焼) によるCO ₂ 排出量、およびCO ₂ 以外 の温室効果ガス排出量の合計 ※算出方法は第11 期環境行動計画「GHG (温室効果ガス) 排出量を2025年度末までに、基準年の半減にする。(基準 年：2020年度)」を参照
	エネルギー起源の間 接排出	トン -CO ₂	主に自社が所有する事業所における、電気・熱の消 費 (購入) によるCO ₂ 排出量 ※算出方法は第11 期環境行動計画「GHG (温室効果ガス) 排出量を2025年度末までに、基準年の半減にする。(基準 年：2020年度)」を参照。

	指標	単位	算出方法
下流 (Scope 3)	販売した製品の加工	トン -CO ₂	中間製品の販売量^{*1}×加工量当たりの排出原単位^{*2} ^{*1} 中間製品の販売量：弊社デバイスソリューション売り上げ ^{*2} 加工量当たりの排出原単位：自社の2015 年度組立工場のデータより算出
	販売した製品の使用	トン -CO ₂	製品使用時の電力消費量^{*3}×電力当たりの排出原単位^{*4} ^{*3} 製品使用時の電力消費量：当該年度に出荷した主要製品 <u>(注1)</u> における各製品1 台当たりの想定使用時間における使用電力量×対象年度出荷台数にて算出。各製品1 台当たりの想定使用時間における使用電力量は、消費電力（kW）×使用時間（h／日）×使用日数／年×使用年で算出。この内使用時間（h）、使用日数/年、使用年は社内独自シナリオで設定 ^{*4} 排出原単位： ● 国内：2022年度 0.437kg-CO₂/kWhを使用 （出所「電気事業低炭素社会協議会」公表のCO₂排出係数） ● 海外：IEA最新値（IEA Emissions Factors 2023）
	販売した製品の廃棄	トン -CO ₂	Σ（年度内に販売した主要製品 <u>(注1)</u> の種類別重量(t) ×処理先における^{*5}廃棄物種類・処理方法別の割合（%）×廃棄物種類・処理方法別の排出原単位（tCO₂e/t）） （出典：環境省・経済産業省 サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出量原単位ベース Ver3.3 排出原単位には廃棄物の輸送段階を含む） ^{*5} 廃棄物種類・処理方法別の割合は、販売した製品のうち、弊社リサイクルセンター回収分については同センターにおける前年度の廃棄物処理実績に基づき算出、それ以外の回収分については一般社団法人パソコン3R推進協会の前年度の廃棄物処理実績に基づき算出

環境リスクへの対応：環境債務

指標	単位	算出方法
環境に関する債務額	円	1. 資産除去債務（施設廃止時のアスベスト除去費のみ） 2. 土壌汚染対策費用 3. 高濃度PCB（ポリ塩化ビフェニル）廃棄物の廃棄処理費用

環境リスクへの対応：土壌・地下水汚染防止

指標	単位	算出方法
地下水汚染の測定値	mg/L	過去の事業活動を要因として敷地境界の観測井戸で当該年度に土壌汚染対策法等を超える測定値が確認された物質の最大値

マテリアルバランス：事業活動における環境負荷

集計範囲：富士通および富士通グループ（詳細は「[環境活動に関する報告対象組織の一覧表](#)」参照）

指標		単位	算出方法	
INPUT				
設計・ 調達・ 製造・ 開発	原材料		トン	当該年度に出荷した主要製品（注1）への材料投入量（各製品1台当たりの原材料使用量×当該年度出荷台数）
	化学物質	VOC排出抑制対象物質の取扱量	トン	電機・電子4団体（注2）の環境自主行動計画にて定めたVOC（揮発性有機化合物）20物質のうち、海外事業所を含めた対象1物質あたりの年間取扱量100 kg以上の物質の取扱量合計値 PRTR法対象物質とVOC排出抑制対象物質の重複する物質は、VOC排出抑制対象物質に含める
		PRTR対象物質取扱量	トン	PRTR法（特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律）対象物質のうち、海外事業所を含めた対象1物質あたりの年間取扱量100 kg以上の物質の取扱量合計値
	水使用量		m ³	上水、工業用水、地下水の年間使用量（融雪用の地下水および浄化対策で揚水した地下水は含めない）
	循環水量		m ³	製造工程などで一度使用した水を回収・処理し、再度製造工程などで利用する水の年間利用量。
	エネルギー消費量（熱量換算）		TJ	Σ〔以下の「購入電力」～「地域熱供給」〕 * 以下の熱量換算係数（単位発熱量）：「エネルギーの使用の合理化および非化石エネルギーへの転換等に関する法律」による。電力は3.6MJ/kWh、都市ガスは供給会社毎の値、または44.8GJ/千Nm ³ を使用

指標		単位	算出方法
設計・ 調達・ 製造・ 開発	購入電力	TJ	電力年間購入量×3.6MJ/kWh*
	A重油・灯油・軽油・ガソリン	TJ	燃料油年間使用量（または購入量）×熱量換算係数（単位発熱量）*
	天然ガス	TJ	天然ガス年間使用量（または購入量）×熱量換算係数（単位発熱量）* （2023年度の天然ガスのデータについてはSATP基準による換算を実施）
	都市ガス	TJ	都市ガス年間使用量（または購入量）×熱量換算係数（単位発熱量）*
	LPG	TJ	LPG年間使用量（または購入量）×熱量換算係数（単位発熱量）*
	LNG	TJ	LNG年間使用量（または購入量）×熱量換算係数（単位発熱量）*
	地域熱供給	TJ	地域熱供給（冷暖房用の冷水・温水）年間使用量（または購入量）
物流・ 販売	輸送エネルギー消費量	PJ	富士通*1および富士通グループ会社*2の輸送エネルギー消費量の合計値 *1 富士通（国内輸送）：「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」（省エネ法）ロジスティックスに基づく富士通グループを荷主とする国内輸送に関わるエネルギー消費量 *2 富士通グループ会社：富士通（国内輸送）の輸送エネルギー消費量と輸送CO ₂ 排出量の比率を用いて、OUTPUT（物流・販売）の輸送CO ₂ 排出量から算出

指標			単位	算出方法
使用	エネルギー	電力	GWh	当該年度に出荷した主要製品（注1）の消費電力量（各製品1台当たりの想定使用時間における使用電力量×当該年度出荷台数）
			PJ	* 熱量換算係数（単位発熱量）：「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」による。
再資源化	資源再利用率		%	一般社団法人電子情報技術産業協会によって示された算定方法に基づく、日本国内での使用済み製品の処理量に対する再生部品・再生資源の重量比率。ただし、使用済みの電子機器製品以外の回収廃棄物は除く
	処理量		トン	
Output				
設計・ 調達・ 製造・ 開発	原材料	CO ₂ 排出量	トン -CO ₂	当該年度に出荷した主要製品（注1）へ投入された材料が、資源採掘され、原材料になるまでのCO ₂ 排出量（各製品1台当たりの原材料使用量をCO ₂ 排出量に換算した値×当該年度出荷台数）
	化学物質	VOC排出抑制対象物質の排出量	トン	電機・電子4団体（注2）の環境自主行動計画にて定めたVOC（揮発性有機化合物）20物質のうち、海外事業所を含めた対象1物質あたりの年間取扱量100 kg以上の物質の排出量合計値 PRTR法対象物質とVOC排出抑制対象物質の重複する物質は、VOC排出抑制対象物質に含める
		PRTR対象物排出量	トン	PRTR法（特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律）対象物質のうち、海外事業所を含めた対象1物質あたりの年間取扱量100 kg以上の物質の排出量合計値。なお、大気排出と水域排出の合算値である。
	大気汚染	CO ₂ 排出量	トン -CO ₂	※算出方法は第11 期環境行動計画「事業拠点のGHG排出量を2025年度末までに、基準年の半減にする。（基準年：2020年度）」を参照
		CO ₂ 以外の温室効果ガス排出量	トン -CO ₂	※算出方法は第11 期環境行動計画「事業拠点のGHG排出量を2025年度末までに、基準年の半減にする。（基準年：2020年度）」を参照

指標			単位	算出方法
設計・ 調達・ 製造・ 開発	大気汚染	NOx排出量	トン	NOx濃度（ppm）×10 ⁻⁶ ×乾きガス排出ガス量（m ³ N／hr）×運転時間（hr／年）×46／22.4×10 ⁻³
		SOx排出量	トン	SOx濃度（ppm）×10 ⁻⁶ ×乾きガス排出ガス量（m ³ N／hr）×運転時間（hr／年）×64／22.4×10 ⁻³
	排水	排水量	m ³	公共用水域および下水道への年間排水量（融雪用の地下水は含めない、浄化対策で揚水した地下水で水量が把握できる場合は含める）
		BOD排出量	トン	BOD濃度（mg／l）×排水量（m ³ ／年）×10 ⁻⁶
		COD排出量	トン	COD濃度（mg／l）×排水量（m ³ ／年）×10 ⁻⁶
	廃棄物	廃棄物発生量	トン	有効利用量（サーマルリサイクル・マテリアルリサイクル）の合計と廃棄物処理量を加算した合計値
		サーマルリサイクル量	トン	有効利用量すべての廃棄物種類におけるサーマルリサイクル量の合計値 ※サーマルリサイクル：廃棄物を焼却する際に発生する熱エネルギーを回収し利用すること
		マテリアルリサイクル量	トン	有効利用量すべての廃棄物種類におけるマテリアルリサイクル量の合計値 ※マテリアルリサイクル：廃棄物を利用しやすいように処理し、新しい製品の材料もしくは原料として使用すること
		廃棄物処理量	トン	埋立処分や単純焼却等により処分されている産業廃棄物量と一般廃棄物量
物流・販売	大気排出		トン -CO ₂	算出方法はGHGプロトコルに基づく温室効果ガス排出量「輸送・配送（上流）」を参照
製品使用	大気排出		トン -CO ₂	算出方法はGHGプロトコルに基づく温室効果ガス排出量「販売した製品の使用」を参照

- (注1) 主要製品：パソコン、サーバ、ワークステーション、ストレージシステム、プリンター、金融端末、流通端末、ルータ、アクセスLAN、アクセスネットワーク製品、携帯電話用基地局装置。
- (注2) 電機・電子4団体：一般社団法人日本電機工業会（JEMA）、一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）、一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会（CIAJ）、一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会（JBMIA）。

2023年度の環境活動に関する報告対象組織の一覧表

報告対象組織

環境報告は、富士通と環境マネジメントシステムを構築している連結子会社を中心とした合計74社を対象としています。個別のパフォーマンスデータの対象組織(注1)は下記表に記載しています。

(注1) 一部の会社名が現在と異なっておりますが、ここでは2024年3月31日時点での会社名を表示しております。

指標別の対象組織

- ① GHG排出量 : 富士通グループの全事業所
- ② Scope1,2 : 富士通および富士通グループの自社事業所および管理権原のある賃貸オフィス
- ③ エネルギー : 富士通および富士通グループの自社事業所および管理権原のある賃貸オフィス
- ④ 水 : (国内) 富士通および富士通グループの自社事業所(但し、データセンター除く)
(海外) 富士通および富士通グループの製造拠点
- ⑤ 廃棄物 : (国内) 富士通の自社事業所(但し、データセンター除く)及び富士通グループの製造拠点。2021年度より富士通の賃貸オフィスの廃プラスチック類を集計対象に含む。
(海外) 富士通および富士通グループの製造拠点
- ⑥ 化学物質 : 富士通および富士通グループの製造拠点。ただし、1物質ごとの年間取扱量100kg未満の拠点は除く。
- ⑦ EMS : 環境マネジメントシステム(EMS)を構築している組織。自主EMSを含む。

本社

No.	会社名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	富士通株式会社	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

国内グループ会社（51社）

No.	会社名 （注1）	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	富士通ホーム&オフィスサービス株式会社	✓						✓
2	株式会社川崎フロンターレ	✓						✓
3	富士通テクノリサーチ株式会社	✓						✓
4	デジタルプロセス株式会社	✓						✓
5	株式会社富士通バンキングソリューションズ	✓						✓
6	株式会社富士通鹿児島インフォネット	✓						✓
7	富士通クラウドテクノロジーズ株式会社	✓						✓
8	株式会社ジー・サーチ	✓						✓
9	株式会社富士通エフサス	✓						✓
10	富士通コミュニケーションサービス株式会社	✓						✓
11	富士通ネットワークソリューションズ株式会社	✓						✓
12	富士通フロンテック株式会社	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
13	富士通Japan株式会社	✓	✓		✓			✓

No.	会社名 (注1)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
14	株式会社富士通システム統合研究所	✓						✓
15	富士通ディフェンス&ナショナルセキュリティ株式会社	✓						✓
16	株式会社富士通ディフェンスシステムエンジニアリング	✓						✓
17	株式会社富士通ラーニングメディア	✓						✓
18	株式会社富士通総研	✓						✓
19	富士通コワーコ株式会社	✓						✓
20	株式会社ツー・ワン	✓						✓
21	富士通アイ・ネットワークシステムズ株式会社 (注2)							✓
22	富士通テレコムネットワークス株式会社	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
23	株式会社富士通ITプロダクツ	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
24	富士通アイソテック株式会社	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
25	株式会社富士通パーソナルズ	✓						✓
26	富士通クオリティ・ラボ・環境センター株式会社	✓						✓
27	富士通オプティカルコンポーネンツ株式会社	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
28	FDK株式会社	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
29	株式会社トランストロン	✓	✓	✓	✓	✓		✓
30	新光電気工業株式会社	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
31	富士通キャピタル株式会社	✓						✓
32	富士通データセンターサービス株式会社	✓						✓

No.	会社名 (注1)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
33	富士通ITマネジメントパートナー株式会社	✓						✓
34	富士通ISサービス株式会社	✓						✓
35	株式会社富士通アドバンスシステムズ	✓						✓
36	株式会社富士通四国インフォテック	✓						✓
37	Ridgelinez株式会社	✓						✓
38	富士通ネットワークサービスエンジニアリング株式会社	✓						✓
39	株式会社モバイルテクノ	✓						✓
40	株式会社ペルテ	✓						✓
41	株式会社ケアネット	✓						✓
42	富士通アドバンス・アカウンティングサービス株式会社	✓						✓
43	富士通ハーモニー株式会社	✓						✓
44	ジスインフォテクノ株式会社	✓						✓
45	株式会社富士通山形インフォテクノ	✓						✓
46	バンキングチャネルソリューションズ株式会社	✓						✓
47	株式会社ITマネジメントパートナーズ	✓						✓
48	株式会社YJK Solutions	✓						✓
49	株式会社ベストラ이프・プロモーション	✓						✓

No.	会社名 (注1)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
50	富士通エンジニアリングテクノロジー株式会社	✓						✓
51	FITEC株式会社	✓						✓

(注2) 2022年12月に譲渡したため、23年度の①～⑥の環境負荷の集計対象外であるが、ISO14001 統合認証として2023年度の途中まで参画を継続

海外グループ会社（22社）

No.	会社名 (注1)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	江蘇富士通通信技術有限公司 (Jiangsu Fujitsu Telecommunications Technology Co., Ltd.)	✓	✓	✓	✓	✓		✓
2	FUJITSU HONG KONG LIMITED	✓						✓
3	FUJITSU DO BRASIL LIMITADA	✓	✓	✓				✓
4	FUJITSU ASIA PTE LTD	✓						✓
5	FUJITSU NETWORK COMMUNICATIONS, INCORPORATED	✓	✓	✓	✓	✓		✓
6	Fujitsu North America, Inc.	✓	✓	✓				✓
7	FUJITSU BUSINESS TECHNOLOGIES ASIA PACIFIC LIMITED	✓						✓
8	FUJITSU AUSTRALIA LIMITED	✓	✓	✓				✓
9	Fujitsu Technology Solutions GmbH	✓	✓	✓				✓
10	南京富士通南大軟件技術有限公司	✓						✓
11	FUJITSU SERVICES LIMITED	✓	✓	✓				✓

No.	会社名 (注1)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
12	FUJITSU KOREA LIMITED	✓						✓
13	台湾富士通股分有限公司 (FUJITSU TAIWAN LIMITED)	✓						✓
14	富士通(中国)信息系統有限公司 (Fujitsu (China) Holdings Co., Ltd.)	✓						✓
15	富士通(西安)系統工程有限公司 (FUJITSU (XI'AN) SYSTEM ENGINEERING Co.,Ltd.)	✓						✓
16	北京富士通系統工程有限公司 (Beijing Fujitsu System Engineering Co., LTD.)	✓						✓
17	富士通(中国)有限公司 (FUJITSU (CHINA) Co., Ltd.)	✓						✓
18	Fujitsu Finance America, Inc.	✓						✓
19	FUJITSU EMEA PLC	✓						✓
20	Fujitsu Systems Global Solutions Management Sdn. Bhd.	✓						✓
21	FUJITSU CONSULTING INDIA PRIVATE LIMITED	✓	✓	✓				
22	FUJITSU CONSULTING COSTA RICA, S.A	✓						